



さわら
福岡県早良警察署における
防犯カメラモデル地区の推進について



福岡県早良警察署
生活安全管理官 警視 末松 範之

1 はじめに

まず、早良警察署とは、どんなところ?ということから申し上げます。

九州最大の都市である福岡市の7つある行政区のうち、早良区と城南区の2つを管轄しており、福岡市の人口約151万人の約22%に当たる約33万人が管内に居住しているといわれております。また、面積も福岡市341.7km²の約33%にあたる約111.9km²を有しております、地形は南北に細長く、北は博多湾に面し、南は背振山地で佐賀県と接していることからも、その広さがお分かりいただけますかと思います。余談ですが、当県には福岡市と北九州市の政令指定都市がありますが、行政区2つを管轄している警察署は当署しかありません。



さて、そのような広い管内ですので、地域によってそれぞれに特徴があります。簡単に申し上げますと、北部は、西新地区を中心とした福岡市の副都心の1つとなっており、商業施設や中高層住宅が集まり、県内有数の進学校がある文教地区としても知られております。

中部は、福岡市営地下鉄や福岡都市高速道路に囲まれ、新興住宅や大型団地がひしめくベッドタウンとなっております。南部は北部や中部と打って変わって、山地で農業や森林地帯となっており、時期によっては螢も見られる自然豊かな地域であります。

このような管内における地域住民の安全・安心を、署長以下約370人の署員で日々守っております。

2 早良警察署の犯罪情勢等

管内の刑法犯認知件数につきましては、平成25年中は4,226件でありまして、平成26年10月末現在では3,892件となっております。各都道府県警察にそれぞれの実情がありますので、この件数が多いとか少ないとかを訴えるつもりはありませんが、当県の中では、かなり忙い警察署として位置付けられております。

さて、平成26年10月末現在の犯罪発生状況を見てみると、自転車盗等の乗り物盗が、特に城南区だけで147件増加し、侵入盗も12件増加しております。防犯カメラモデル地区にも関連しますので、城南区のことを少し説明しますと、同区は管内の中部に位置しており、学生2万人以上が在籍する西日本最大級の私立福岡大学のほか私立中村学園大学が存在する、いわゆる学生の多い町であります。そのためか、学生が使用する自転車やオートバイが盗難被害に遭うケースが後を絶たず、また、女子大学生を狙った色盗や性犯罪等も発生しております。

当署としましては、地域警察官を中心とした積極的な職務質問等による犯人検挙を徹底しているほか、学生防犯ボランティア等と連携した各種防犯キャンペーン

を強化して犯罪の発生抑止に努めているところであります。

3 防犯カメラモデル地区に至るまでの険しき道のり

(1)当署における防犯カメラ設置に関する豆知識

当署では、犯罪の抑止、住民の安心感の醸成や事件等の早期解決を図るために、防犯カメラの設置を推進しております。具体的には、犯罪分析等に基づく防犯カメラの必要箇所を自治体等に対して提案し、その設置方法に関する個別具体的なアドバイスを行うなどしております。

また、福岡市では、自治会や町内会等が防犯カメラを設置する場合は、一定の条件を満たせば設置費用を補助する「街頭防犯カメラ設置補助金制度」なるものを創設しており、福岡市民の防犯カメラ設置意欲の醸成に一役買っております。

(2)地域住民への働きかけと困難からの転換

今から遡ること2年前(平成24年頃)、当署管内の中部に位置する犯罪が多発傾向にあった福岡大学周辺において、その抑止効果が期待できる防犯カメラの設置を地域住民に対して強力に働きかけていたところ、自治会内での設置経費やランニングコスト等維持管理費に関する懸案事項の調整や整理が難航し、頓挫しかねない状況にありました。

そのような折、平成24年12月、日本防犯設備協会から当署に対して、防犯カメラ普及促進プロジェクトの一環として、福岡市内でも特に乗り物盗や性犯罪等が多発傾向にあった福岡大学や中村学園大学の周辺における、防犯カメラ設置に関する検討・協議の申し出を受けたのであります。まさに、渡りに船と申しましようか、難破しかけた設置計画に一筋の光が見えたようでした。

(3)一筋の光に見えた突破口

早速、関係各所を総点検したところ、福岡大学の直近にある片江小学校区に学生寮や学生用アパートが密集しており、当時、不幸なことに自転車盗が管内で2番目に多い年間117件、オートバイ盗が管内最多となる年間70件であることも設置場所の検討に加味されまし

た。そのようなことから、防犯カメラ設置の効果が非常に高いと思われた片江小学校区のなかでも、特に犯罪発生が顕著であった西片江二丁目地区を設置推進箇所として抽出することになりました。

同地区の防犯カメラ設置に関しては、当署、地域住民、福岡大学、城南区役所、早良・城南防犯協会等のメンバーによるプロジェクトを立ち上げ、各種説明会や検討会を実施して賛同を得たことから、平成25年6月、同地区に防犯カメラを設置することが決定いたしました。

(4)地形を活かす設置

ここで、西片江二丁目地区の地形等について若干の説明を加えますと、学生用アパートが密集するブロックで、北方、東方及び西方は道路が縦横無尽に通り、地区外からの出入りが自由となっておりますが、南方は山に接しているため行き止まりの地形となっております。その地形等の特色を活かすために検討を重ね、地区外から自由に入り出しができる北方の道路4か所にカメラ4台を設置することが効果的であるとの検討結果を導き出し、設置箇所等が決定しております。

あわせて、苦労して防犯カメラを設置するのであれば、この機会に安全・安心に繋がる効果を盛り上げようと、同地区の暗がりを解消すべく、街灯の照度アップを行ったほか、カメラ未設置場所に対する街灯設置の働きかけを行うなど、より安全・安心な地域となるよう盛り上がりを見せたところであります。



(5) お披露目による地域住民への好影響

平成26年2月、同地区を早良警察署防犯カメラモデル地区に指定することになりました。モデル地区の指定に当たり、当署署長、日本防犯設備協会代表理事、西片江自治会長、城南区役所等の関係機関団体から多数の方が出席して、除幕式とカメラ設置状況の視察を執り行つたところ、その様子が大々的に新聞報道やテレビ放映されたため、地域住民の方々から「防犯カメラが設置されて安心感が増しました。」等の声が多数聞こえ、防犯カメラの設置による地域住民の安心感に与える好影響は、計り知れないものがあることを再認識した次第であります。



4 今後の展望

(1) 防犯カメラ設置による犯罪抑止効果は大

【自転車盗及び住宅対象侵入盗の発生状況】

自転車盗	平成26年 10月末現在	平成25年 10月末現在	前年同期比	
			増減	%
福岡市内	7,540件	7,750件	-10件	-2.7%
早良警察署管内 (福岡市早良区、城南区)	1,167件	1,147件	+20件	+1.7%
福岡市城南区	515件	450件	+65件	+14.4%
片江小学校区	81件	89件	-8件	-9.0%

住宅対象侵入盗	平成26年 10月末現在	平成25年 10月末現在	前年同期比	
			増減	%
福岡市内	1,378件	1,350件	+23件	+2.1%
早良警察署管内 (福岡市早良区、城南区)	189件	200件	-11件	-5.5%
福岡市城南区	100件	88件	+12件	+13.6%
片江小学校区	23件	34件	-11件	-32.4%

前述しましたように、城南区における自転車盗等が増加する中、モデル地区であります片江小学校区に限って見てみると、自転車盗が前年同期比マイナス8件(前年同期比-9.0%)で81件の発生となっております。更に、防犯カメラを監視の目として恐れおののく泥棒が犯す空き巣等の侵入盗にありましては、前年同期比マイナス11件(前年同期比-32.4%)で23件の発生に抑止するなどの顕著な成果が上がっており、これも犯罪抑止に繋がる防犯カメラの証と考えております。あわせまして、これら効果の高まりとともに、地域住民から「防犯カメラが設置されて良かった。」等の反響もあり、地域住民の安心感に更なる好影響を与えられたものと思っております。

今後も、同地区はもとより、その周辺も含め、防犯カメラや街灯の増設を働きかけて整備を促進するなど、地域住民とともに安全・安心を守っていく所存であります。

(2) 防犯カメラの普及促進

平成26年度中、既に管内の2つの自治会で防犯カメラの設置が内定しておりますが、今後も各自治会、商

店街、大型商業施設等への働きかけを行っていき、1台でも多くの防犯カメラを設置して管内の地域住民の安全・安心を見守る目を増やしていきたいと思っております。



5 おわりに

縷々申し上げましたが、正直なところ、小職は平成26年3月に当署生活安全管理官に着任しており、防犯カメラモデル地区の指定に直接携わっておりません。今回の投稿に当たりましては、当時の関係者からの聞き取りや関係書類を精査いたしまして、事実に基づいてお伝えできたのではないかと思っております。なにぶん不慣れな執筆であるため、乱文となったことをお詫びいたします。